



企画展 縄文土器を^み見る —作った痕・使った痕— 開催中



現在、水子貝塚資料館では、令和7年度企画展「縄文土器を^み見る —作った痕・使った痕—」を開催中です(6月14日まで)。今回の企画展では、土器の製作や使用の痕跡に視点を置き、4つのコーナーから展示を構成しております。

1つ目のコーナー「富士見市の遺跡と縄文土器」では、市内で出土した縄文土器から良品をピックアップし、土器のタイプ(型式)が時代の中で移り変わって行く様子を示しています。

2つ目のコーナー「作った痕を^みる」では、遺物や遺構に残る土器づくりの痕跡を紹介しています。土器を作る粘土に混ぜられていたものや、土器の割れ口からみる成形の様子、土器の底部に

ついた敷き物の痕などの観察から、当時の土器づくりの様子を考えることができます。

3つ目のコーナー「使った痕を^みる」では、土器に残るコゲや、欠けた土器を修復していた様子を紹介しています。土器がどのような使い方をされていたのかを考えるには、土器の付着物や、土器が出土した状況などがカギになります。

4つ目のコーナー「復元する^みる」では、縄文土器の作り方を復元して、実際に作ってみることを試みている方々を紹介しています。

今回の展示が、縄文土器を作り、それを使っていた当時の人々の暮らしや文化について、考えるきっかけになれば幸いです。

縄文の森から

冬から咲き続けていたヤブツバキの花が終わる頃、水子貝塚公園は本格的な春を迎えます。

この時期になると、昆虫たちの活動も本格化して、活発に活動する姿を見ることができます。

アラカシ・ヒサカキなどの常緑広葉樹の葉裏で、成虫のまま冬を越したウラギンシジミも餌を求めて動き始めます。翅の裏が灰白色をしている為ウラギンという名がついています。

薄暗い常緑樹の森の中で羽ばたくと、この翅に当たった木漏れ日でチラチラと光が点滅するように見えることがあります。

オオスズメバチは女王バチの成虫だけが越冬することができます。温度変化の少ない朽ち木の中や倒木の下、木の根元の土中などで冬を越し、春になると1頭で巣作りと子育てを始めます。この時期は、女王バチが死んでしまうと巣が全滅ということになるので、こちらから手を出さないかぎり、女王バチが攻撃してくることはまずありません。産卵から成虫になるまでは3~4週間かかるので、5月中旬以降は働きバチが出てきて女王バチは産卵に専念するようになります。

シロテンハナムグリは基本的には幼虫で越冬し、初夏から羽化が始まりますが、秋に羽化した成虫では、越冬できる個体もあり、春から秋までの長期にわたって見られる昆虫です。

そんな昆虫たちの中で、春の水子貝塚公園で一時的にですが、とても目立つものがあります。

ヒラタアオコガネです。気温が十分に暖かくなると、冬を越していた芝生の下から出てきます。

晴れた朝、一斉に出てきて、大集団で芝生の上高さ30cmくらいのところを低空飛行します。

小さな彼らにとっては低空飛行では無いのかもしれませんが、大人の膝位の高さで金緑色の昆虫の大群が飛び交う様子は、ちょっとSFのような、壮大な雰囲気にも感じます。

しかし、虫嫌いの人は気味が悪いと思うようで、また、キンバエだと思える人もいます。

飛んでいないとき、成虫は木や草の柔らかい葉や花を食べるため、シロツメクサの葉や花、芝の新芽、森の中で芽生えたコナラの若芽を食べているところを観察することができます。

集団で飛ぶのは、主にパートナーを見つけるためのようです。メスはフェロモンを出してオスを誘い、オスはメスを目掛けて集まります。

地上に降りているものは繁殖行動をしているものが見られ、1頭のメスを複数のオスが奪い合う姿が見られることもあります。

繁殖行動を終えたメスは土の中に潜って産卵します。土中で卵から孵化した幼虫は芝の根を食べて育ちます。幼虫は夏の終わり頃に蛹になり、秋に羽化します。成虫になっても土から出ることはなく、土窩（どか 蛹室）の中でそのまま春を待ち、暖かくなると地上に出てくるのです。

水子貝塚公園にはカブトムシ以外にも多くの興味深い昆虫が居るので観察してみてください。



ウラギンシジミ



オオスズメバチとハナムグリ



ヒラタアオコガネ

資料館 イチ おし!

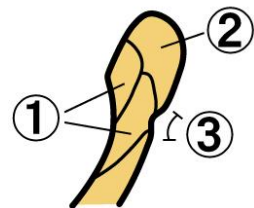
なかざわ 中沢遺跡出土の土器破片に残る痕跡

ふじみ野市と富士見市の境に流れた「さかい川」沿いに位置する中沢遺跡から出土した、縄文時代中期後葉の浅鉢形土器の破片です。

ロクロがない縄文時代、粘土を土器に成形する方法は、帯状に延ばした粘土を輪にして積み上げていく「輪積み」が主でした。この土器では、輪積みの接着部分から剥がれるように割れており、割れ口では粘土帯の繋ぎ目や、粘土帯を押さえた指の痕（指頭圧痕）が観察できます。このような

痕跡から、おおよそ下記のような手順で土器の縁の部分（口縁部）を成形したことが見て取れます。

- ①内面の方向に傾けて粘土帯を積み上げ、内湾した形をつくる
- ②外面に粘土帯をはりつけ、厚みをつける



<口縁部断面の模式図>

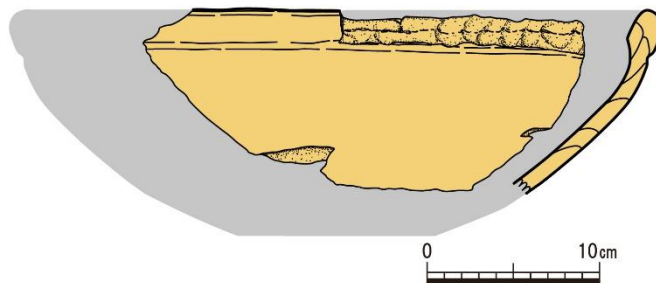
- ③ヘラのような道具で口縁部と胴部の境目をなぞり、厚みの差を強調する

割れ口で観察できる連続した指頭圧痕は、①の作業中についたものです。入念に粘土を押さえつけていた様子を伺わせます。縄文時代の人がつけた指先の痕だと考えると、少し不思議な気持ちにもなります。

現在開催中の資料館企画展で、6月14日（日）まで見ることができます。



中沢遺跡出土の土器破片



割れ口を点描で表現した実測図



イベント レポート



毎年企画展に関連し、ふじみ考古学教室を開催しております。今回は、3月21日（土）に中央大学文学部教授の小林謙一氏をお招きし、「縄文土器の用途・技術・年代を科学する」というタイトルでご講演いただきました。

土器に付着した炭化物からわかることや、土器に残る小さな種子の圧痕についてなど、最新の研究方法を交えた講演は、どれも興味深い内容で参加者も聞き入っていました。

皆さんに考古学に興味を持ってもらえるような講座を今後も行っていきたくと思っています。

5～7月のイベント予定

* イベント予定は変更することがあります
最新の情報は広報富士見か公式サイトで

縄文の森観察会（初夏）

水子貝塚公園内の植物を、当館職員のガイドを受けながら観察します。初夏ならではの植物を、楽しみながら学びます。

日時 6月13日（土）
午後1時～午後2時

場所 水子貝塚公園内説明広場集合

定員 15名（当日先着順）

縄文の森コンサート

水子貝塚公園内展示館にて、サクソ四重奏のコンサートを行います。午後のひとときを素敵な音色とともにお過ごしください。

演奏 アンサンブル キラン
Ensemble Kiran

日時 6月28日（日）
午後2時～午後3時（1時30分開場）

場所 水子貝塚公園内 展示館

参加費 無料

定員 80名（先着順）

申込み 不要

夏休み縄文宿泊体験

全3日の日程で、土器づくり体験、縄文体験などを行います。小学4～6年生対象です。

日時 ①7月18日（土）午前9時～
7月19日（日）午前11時30分
②8月8日（土）午前9時～12時

定員 20人（定員超の場合は抽選）

参加費 1500円

申込み 右QRの申込みフォームから。

6月3日（水）9時～

6月20日（土）17時受付

6/3までフォームへのアクセスはできません。その他の申込み方法等は資料館までお問合せください。



夏休み(7/20～8/23)期間中は

平日も!

体験！いつでもセブン

開催中！ぜひご参加ください！

※詳しい開催カレンダーはHPをご覧ください

土曜おもしろミュージアムランド

会場 水子貝塚資料館内 体験学習室他

時間 午前10時～、午後1時30分～

受付は各30分前より

各1時間～2時間程度

定員 各回15人（当日先着順）

対象 小学生以上

（未就学児は保護者同伴で可）

日程	内容（参加費）
5月16日	ミニチュア土器（100円）
6月6日	貝のアクセサリ（100円）
6月20日	革のきんちゃく（300円）
7月4日	カラムシのランプシェード（100円）

※カラムシのランプシェードは汚れてもいい服装でご参加ください！



発行日 令和8（2026）年4月25日

編集・発行 富士見市立水子貝塚資料館

国指定史跡 水子貝塚公園内 〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP

二次元コード



☎ 049-251-9686

FAX 049-255-5596

